

中日ニュース

第二〇三号 内

容 高野三之号

一、岸首相帰る

十二月五日、岸首相はオーストラリアのメンジース首相と通商協定に署名し貿易量をふやすことが決まりました。最後の訪問地フィリピンのマニラには繁華街から一步踏み込むと生々しい市街戦の跡が残っています。

ねっから子供が好きな岸さんは戦災孤児に囲まれて楽しそうです。こうして東南アジア訪問を終った岸首相一行は八日朝、羽田空港に帰って来ました。大野副総裁らに迎ええられた岸さんは日やけた顔で元氣一杯です。十日には入院中の社会党鈴木委員長や鳩山、石橋元首相らに帰国挨拶をしました。

一、共産圏との通商へ

三ヶ月にわたつた、日ソ通商交渉がまとまり、十二月六日、日本の広瀬代表とセミチャストノフソヴエト代表によって調印式が行なわれました。またこの夜羽田空港に中国紅十字会の李徳全女史らの一行が三年ぶりで来日しました。国府系の反共グループ三十人がピラをまくなど警官との間で小ゼリ合いがありました。ロビーにあらわれた李徳全さんは盛んな歓迎の花束を受けました。

一、慧生さんらしいに心中

十二月四日朝から姿を消した元滿洲国皇帝溥儀氏のメイ、学習院大学二年生の愛親覚羅慧生さんと学友の大久保武道君はその後、伊豆天城方面に行つたことが判明。

天城山一帯に警官、消防団、学友らが大がかりな捜索を続けていましたが十日朝、天城峠北方の山中でピストル心中した二人の遺体を発見。生きていくれと願つた友達や家族の願ひもむなく終りました。湯ヶ島派出所に移された遺体はかけつけた家族や、学友と悲しみの対面、遺髪などから覚悟の心中と見られています。二人の死の原因として特殊な生い立ちと環境などがあげられています。

一、波紋よぶ先生の通信簿

勤務評定をめぐる政府対日教組の対立は、愛媛県教育委員会が十二月十日までの期限付き提出を求めたことから四国の松山で正面からぶつかり合う事態となりました。

自民党も教組も中央から続々とくり込み教組側がP・T・Aと反対大会を開けば、自民党も派手な宣伝戦をくりひろげ進退きわまつた校長の中には辞表を出してやめる人も出ている有様です。

先生の能力や成績に一等から五等までの採点をつけることの是非はともかく、政府対日教組の政治的な対決であつてみれば、日本の教育が一つの岐路に立っていることはたしかなようです。

210 製作配給 東京中日新聞、中部日本ニュース映画社

297
82.12.13